

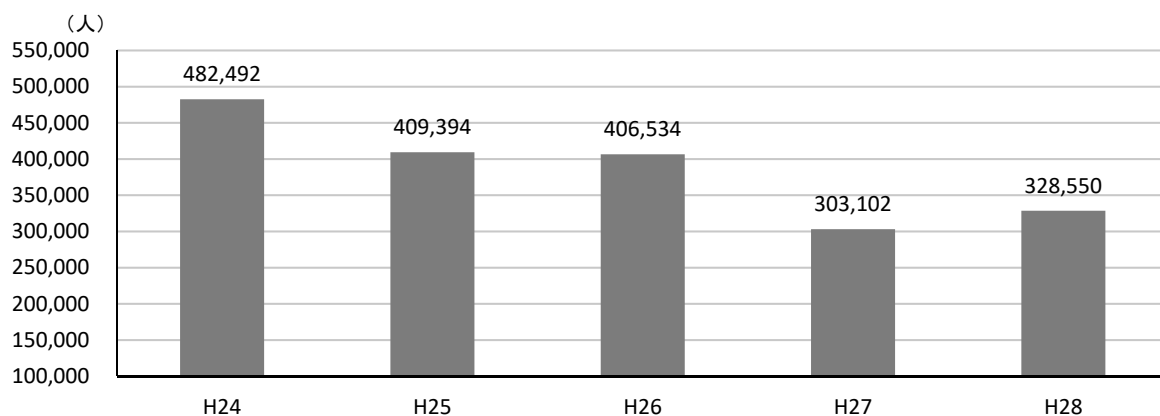
6 学びの成果が生きる生涯学習の振興

(1) 共に学び合い、共に価値を創る「みんなの学び」の推進

現状と課題

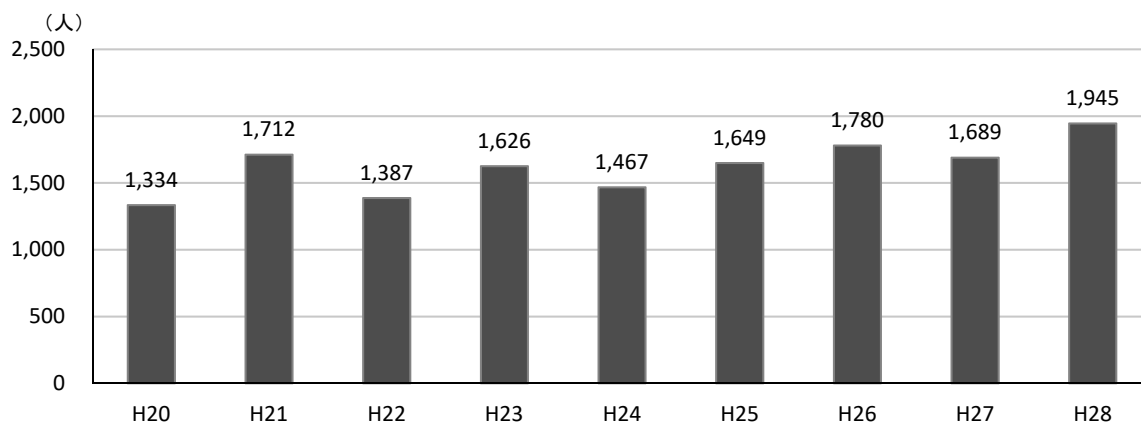
- 実生活で直面する様々な社会的課題は、時代や社会背景の変遷とともに絶えず変化しており、一個人の力で解決することは困難な状況です。自ら課題を見つけ、コミュニティで協働しながら解決策を導き出していく主体的・創造的な行動（「みんなの学び」）が、これからの時代には求められています。
- 課題解決や夢の実現に向けて行動し、仲間と共に新しい価値を創造していく「みんなの学び」が県内の各地域で活性化していくよう、市町村と連携しながら様々な取組を行うことが必要です。

図6-(1)-① 公民館の講座参加者数推移



文化財・生涯学習課調べ

図6-(1)-② 生涯学習推進センター研修講座（指導者養成講座）利用者数



文化財・生涯学習課調べ

目指す成果

- ◆ 県民が生涯にわたって学び続け、地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けられるようにします。

主な施策の展開

共に学び合い、共に価値を創る「みんなの学び」を全県で活性化していくために、次のような取組を進めます。

① 信州の記憶・記録を未来に伝える情報基盤の構築

- 信州のアイデンティティを未来に残し伝えるため、県立図書館・歴史館において、信州にまつわる情報資産（資料や博物）の収集保存を強化します。
- 様々な主体が所有している信州に関する情報の相互活用を推進するため、インターネットを通じて誰もが使えるデジタル情報基盤を整備します。
- 県民誰もが、必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を身に付けられるよう、県立図書館と市町村立図書館とが連携して、情報活用能力の向上に資するプログラムを実施します。

② コミュニティの育ちを支える人材の育成

- 地域の様々な学習や議論、活動の場において、状況に応じて、目的までに至る過程を促進することのできる、ファシリテーター*を養成します。
- 地域の人と人、あるいは様々な組織などをつなぎ、色々なジャンルの活動、事業に寄り添い、支援するコーディネーターを養成します。
- 生涯学習推進センターにおいて、地域課題への対応や、持続可能な地域づくりを中核的に担う人材の養成を推進します。

③ 新しい社会的価値を創造する場と機会の提供

- 自治の担い手の育成に取り組む公民館を支援するなど、地域コミュニティの拠点づくりを推進します。
- 県立図書館を中心に多様な情報や人をつなぎ、「みんなの学び」を推進していくモデル空間を整備します。
- 地域における学びの場である社会教育施設において、多様な価値観を持つ人々が集まり、影響し合い、新しい社会的価値を創る課題解決型プログラムを、県内各地で実施します。
- 県内各地で取り組まれている様々な学びの情報を、インターネット上で広く共有できる仕組みを整備します。
- 地域の価値を捉え直して課題解決に取り組むための新たな手法を構築するとともに、県民が地域の課題と向き合う学びの活動の価値に気付き、主体的に活動に取り組む機運を県民に醸成するため、優良事例の紹介や顕彰を行うフォーラムやアワードを開催します。



県立長野図書館でのワークショップ



世代を超えて学び合う公民館活動

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
市町村公民館における学級・講座数（人口千人当たり）	4.3 件 (2016 年度)	4.5 件 (2022 年度)	文化財・生涯学習課調べ
県内公共図書館調査相談件数	78,724 件 (2016 年度)	82,000 件 (2022 年度)	県立長野図書館調べ

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する 2023 年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
生涯学習推進センター講座受講者数	1,945 人 (2016 年度)	参加者の関心事に沿ったテーマ設定であるかどうかの測定	文化財・生涯学習課調べ

特色ある取組

学びを通して自治の担い手として育つ、公民館活動

長野県の公民館数は全国一であり、それぞれの地域で、持続可能な地域社会の構築に向け、住民の学びと、その学びが育む自治力を高める様々な取組が行われています。

公民館は、戦争で荒廃した郷土の復興を、住民自らの手で進めるための学びや交流の拠点として設置された、日本独特の社会教育機関です。最近では公民館職員が講座を企画し、住民は講座の参加者、という事業が増えてきましたが、飯田下伊那地域などでは、住民が主役で、主役である住民の活動を支えるのが職員の役割という公民館の仕組みや取組が息づいています。

阿智村には満蒙開拓記念館があり、満蒙開拓の歴史を次世代に伝えています。2017年には、残留孤児となって日本に帰国し、満蒙開拓の語り部を務めた故野中章さんの日本への帰国後の暮らしをテーマとした村民劇「たんぽぽの花」など3つの作品が制作・上演されました。

これは、一人の地域おこし協力隊員の「演劇は自分が経験できなかったことを疑似体験する学びである」との発案から、公民館が事務局となって進められている取組です。地域の小学生たちが演じ手の中心で、演出や裏方もすべて住民の手で進められ、2018年は長野市や岡谷市でも上演されました。

1948年3月竜丘村公民館（現在の飯田市竜丘公民館）が誕生した時の中心人物であった橋本玄進氏は「公民館は観客のいない芝居である」と、住民が主役の公民館像を構想していますが、阿智村の村民劇はまさに草創期の公民館の姿を体現した取組です。

少子高齢人口減少が進む社会において、住民自らが主役となり、地域や社会の課題に向き合う学びを支えていく、公民館の役割がこれまで以上に求められています。

